

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 90

所管部局	美山支所	所管課	地域総務課	担当者名	村田 文雄
事業名	地域活性化支援事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	美山まちづくり委員会支援事業			政策体系	453
会計	一般会計	科目	2.総務 - 1.総務 - 9.地域		

1. 事業の概要

地域が一体となり、地域住民が自ら地域の課題を掘り起こし個性ある地域づくりや人材の育成をめざす組織の活動に対して補助金を交付した。

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

行政主体のまちづくりから市民との協働による「まちづくり」が可能となる。

②事業を実施する必要性

地域の課題を共有し全体のものとして考えるとともに、その方向性等を助言をしていくことにより、地域の活性化やまちづくりの糧となることから、本事業の実施は必要不可欠である。

3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	0	0	270	219	219	219	219
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	0	0	270	219	219	219
職員等の従事人員	人/年	—	—		0.22			
人件費	千円	—	—		1,322			
事業費総額	千円	—	—		1,541			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

美山まちづくり委員会補助金 219,000円

5. 事業結果の概要

「魅力ある美山のまちづくり～地域課題に挑む～」冊子を作成し美山町域全戸に配布し、市民一人ひとりがまちづくりの主人公であり参画いただくことを呼びかけた。
 農業問題については、少子高齢化問題と合わせ美山の最重要課題であるが、基本は各集落・地域での取り組みが中心に行われるべきであり、その体制作りも徐々に集落・地域によって取り組みだされている現状がある。

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) 委員会の開催		
●まちづくり委員会の開催 地域課題への提言のための会議を開催した。	●4月28日、8月11日、9月3日、12月8日、3月11日	●5回の委員会を開催
(2) 基金の活用		
●がんばる美山応援基金を利用した事業への補助 砂木区 NPO法人芦生自然学校・美山漁業協同組合	●4月1日～3月31日	●2件の申請があり、いずれも採択した。
(3) 研修会の開催		
●美山フォーラムの開催 基調講演とパネルディスカッション 基調講演 講師 飯塚徹士 氏 演題 都市生活者の今と市場開発への着眼 パネルディスカッション 地域活動の先頭に立って進めたい 場 いる4名の市民の方による活動報告と との意見交換	2月21日（日）	出席者200名
(4) 冊子の作成		
●まちづくりの指針となる「魅力ある美山のまちづくり～地域課題に挑む～」の冊子を作成し、各戸に配布した。	●10月8日、12月22日、1月19日	●3回の会議を開催
(5) 事業の推進		
●産官学公連携協議会との連携による各種事業の実施 ●日本風景街道『美山かやぶき由良里街道』の推進委託業務を行った	●4月1日～3月31日 ●11月4日	●4つのプロジェクトが実施する事業に執行側として加わった。 ●風景街道の取り組み報告会に参加した。

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

市町村合併による周辺部の地域として、関係団体等が横断的に連携する中で地域の課題解決に挑むシステムとして構築された。有効なまちづくりの議論や提言はあるものの、課題解決のための事業化に向けた財源確保が課題となっており、協働の推進の観点から市の支援策の検討が必要である。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

--